

Wood Letter

Ψ moku推し Ψ

令和6年11月vol.51



多摩木材センター：原木市

森林環境譲与税 ご担当者の皆様へ

平素より、東京の木 多摩産材をはじめ国産木材の利用推進についてご理解及びご協力をいただき誠にありがとうございます。

長かった暑い日々がやっと終わり、やっと秋らしくなってきました。秋といえば食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋などいろいろありますが、秋の行楽シーズンには、ぜひ森に足を運んでみてはいかがでしょうか。森の中でのんびりするだけで心も体もリフレッシュできますよ。

ということで“Wood Letter Ψ moku推し Ψ”vol.51をお届けいたします。ぜひともご参照いただき、貴団体内の関係する部署にも転送いただくなどご協力をお願い申し上げます。

：森づくり推進担当一同：

(1) 多摩産材流通現場等見学会

ご案内しておりました令和6年度第1回「自治体職員対象多摩産材流通現場等見学会」を、9月25日(水)に開催しました。

当日は、森林の伐採から原木市場・製材・活用までの流通過程の見学をテーマに、檜原村の主伐現場、原木市場、あきる野市の製材所及び多摩産材利用施設を訪ねました。心配された雨にも終日降られることなく、無事見学を終えました(10自治体17名参加)。見学会の開催にご協力いただいた自治体関係者の皆様には、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

参加者には好評をいただき、有意義な見学会だったと満足いただけたようです。ご参考までに参加者アンケートにご記入いただいたコメントを数例紹介いたします。

第二回目の見学会は11月15日開催です。今回参加できなかった方も、ぜひお申し込みください。

第1回見学会の様子



左：檜原村内の伐採現場で説明に聞き入る。急峻な斜面で、架線集材という技術が必要な作業を見学。



右：多摩木材センターにて原木市を見学。座学の後、多摩産材の競りの様子を間近で見ることができ、役員から詳しい説明をいただく。



左：製材工場では原木市で買われた丸太の皮むき、製材、乾燥、仕上げ等木材の一連の工程を説明を受けながら見学。



右：多摩産材利用施設として、あきる野市の温泉施設秋川渓谷瀬音の湯を見学。市の担当係長から説明をいただく。

実際に現場を見ることで、木材流通についてイメージがわいた。現場の方のお話を聞いたのが良かった。

森林整備、林業、木材活用までバランス良く見学させていただきました。

1日で「伐採、流通、製材」までの流れを確認でき、今後の業務（主に森林整備計画策定）に役立つ内容であった。また、現場を見ながら専門家の方に話を聞ける機会は貴重であった。

木材流通の詳細について知ることができた。

多摩産材の調達から流通が分かった。

令和6年度第2回「自治体職員多摩産材流通現場等見学会」を11月15日に開催します

10月15日に森林環境譲与税ご担当者様にメールでご案内したとおり、東京の森林・林業を知ってもらい、多摩地域の森林整備や多摩産材活用推進の契機とすることを目的として、多摩産材の伐採現場や利用施設及び森林を見学する第2回「多摩産材流通現場等見学会」を開催します。

募集締切は11月5日です。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

第2回見学会 11月15日（金）

- ①八王子市伐採現場
- ②檜原村農林振興施設（木材利用施設）
- ③払沢の滝（森林見学）
- ④檜原村MOKKIの森（森林見学）
- ⑤檜原森のおもちゃ美術館（木材利用施設）

(2) 東京の木 多摩産材 利用拡大フェア2024

去る10月24日・25日に東京の木 多摩産材利用拡大フェア2024が、新宿NSビルにて開催されました。この催しは、東京の木 多摩産材の利用促進を目的に、地域の木材産業の利用拡大を推進する展示商談会で、今回で10回目の開催となります。

会場では47事業者による多摩産材を使用した家具、インテリア製品、建材、外構などの出展があり、多くの来場者が製品に触れ、木の魅力を感じていました。また、森林環境譲与税や木造建築物の木質化支援事業、木材利用支援事業などの補助金に関する相談が行われました。

会場内に設けられたステージでは、出展者による商品紹介、多摩産材利用事例の紹介が行われ、来場者は多摩産材の多様な利用方法を学ぶことが出来ました。

フェアの詳しい様子は、公式HP（<https://www.tamasanzai.jp/2024/>）もご覧ください。



森林環境譲与税相談コーナー



東京都農林水産振興財団



各出展者ブース



東京・森と市庭



東京建具協同組合



東京都森林組合

(3) 多摩産材利用促進プロジェクト 令和5年度事例

「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」事業の令和5年度活用事例をご紹介します。

この事業は、多摩産材と触れ合う場を創出し更なる利用拡大を図るため区市町村によるモデル的な公共施設整備に対して都が支援するもので、令和5年度は13区市町村24事業を対象に実施しました（令和6年度は13区市町村27事業の予定）。その中から今回は品川区の事例を紹介します。

品川区事例

木製遊具（区立南五公園）



多摩産材PRプレート

特別区道横断抑止柵



多摩産材PRプレート

(4) 林野庁マンスリーレポート「モクレポ」令和6年10月号

林野庁が公表する「モクレポ～林産物に関するマンスリーレポート」の令和6年10月号が公開されました。このレポートは木材需給、木材価格、木材産業の動向などに関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表するものです。今月号は2023年の国内外の木材の需給と供給バランスについて詳しく解説されています。

また、今年9月までの国産木材の価格情報や需給状況についても公表されていますのでご参照ください。

掲載的林野庁HP：<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei/monthlyreport.html>

冊子の当該ページ：<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei/attach/pdf/monthlyreport-123.pdf>



(5) MOCTION 企画展示

木材の大消費地である東京での更なる木材利用の拡大に向け、国産木材の魅力を発信する拠点「MOCTION（モクション）」。

一定期間ごとに、全国各地の木材製品の展示が行われています。

9月12日～10月8日 愛知県



愛知県の木材を建築用材としてだけでなく、家具、雑貨、ペン等の文房具として展示している。スギ・ヒノキの大径材を利用した、集成材の建築用途以外での活用も提案として展示されている。

10月10日～10月22日 高知県



高知県にしかない工場で作られた製品モクメンと築瀬杉で作られたモナッカバックが目を引く。モクメンは柔らかな手触りと色の多彩さが魅力で、持ち帰り自由とした為、最終日前に無くなりそう。

10/24～11/5は秋田県、11/7～11/19は茨城県の企画展示となります。ご来場をお待ちしています！

ちょこっとコラム（ご存知でしたか？こんなこと）

＊2023年の日本の木材自給率は何パーセントでしょうか？ ＊ A)約33% B)約43% C)約53% D)約83%

私たちの消費する木材の半数以上は外国から輸入されています。特に紙の原料となる木材チップの輸入依存度(昨年は83%)は高く、ベトナム、オーストラリア、タイ、南アフリカ等が相手国です。1968年までは木材自給率は50%以上ありましたが、東南アジア諸国や北米などからの輸入増加で1969年に50%を割り込み、さらにロシアやオセアニア、欧州諸国などからの輸入が増えて2002年には18.8%まで低下しました。

近年は、京都議定書の発効に伴う地球温暖化対策として森林整備が推進され、公共建築物や商業施設にも木材の利用が増え、木材自給率も緩やかに上昇しています。その結果昨年は42.9%となっています。

「WOOD LETTER Moku推し（ウッドレター モクオシ）令和6年11月vol.51」

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一庁舎21階中央
東京都産業労働局農林水産部森林課 森づくり推進担当
TEL03(5000)7198(直通) 担当:荒川、伊藤、小山、中田、中村

森林環境譲与税はもとより、多摩産材の利用等東京の森林・林業に関することにつきましてもお気軽にお問合せください。